

トラック向け 脇見、居眠り警報ハンドルを開発 後付けで事故防止に貢献

2016/04/02 08:03

豊田合成は、ドライバーの危険動作（脇見、居眠り）を検知し、警報するトラック向けの後付けシステムを開発しました。

このシステムは、従来のハンドルにカメラを組み込んだ「カメラ付きハンドル」と、専用アプリを搭載した「スマートフォン」で構成されています。

ハンドルのカメラで撮影した画像をスマートフォンに送信して解析し、一定時間の脇見、居眠り（眼が閉じている状態）を検知した場合に、警報を鳴らしドライバーに注意を促すようになっています。

また、スマートフォンの通信機能を使って、位置情報システムやドライブレコーダーの解析などに活用することができます。

同社は既に2014年からグループ会社のTGロジスティクスのトラック15台に本システムを搭載し、累計走行距離約10万km以上の実証試験を行い、一定の効果があることを確認しました。今後は、一般のトラック事業者への販売を検討するということです。

先日、広島県の山陽自動車道で起きたトンネル火災事故では、渋滞の列にトラックが追突した模様で、この種の脇見・居眠り監視システムが発達することが臨まれます。